

『双葉小学校をおもう会』課題懇談会報告書

令和4年7月25日（月） 19時00分～20時30分 コミセン比也野

出席者 双葉小学校をおもう会 11人 文教民生常任委員会委員 8人

傍聴議員 8人

『双葉小学校をおもう会』の皆さんからのご意見等

- ・ 今回の学校学習環境規模適正化検討会議の“小規模特認校も例外なく”には違和感がある。
- ・ 自然環境、少人数で一人ひとりに寄り添う教育をなくさないでほしい。
- ・ 児童の50%が校区外から通っている。
- ・ 双葉小学校の選択肢がなくなる事が残念。子どもに選択肢を残してほしい。
- ・ 双葉小学校に通うようになり、人前で発言できるようになった。
- ・ 自然いっぱい、思いっきり遊ぶことができる。
- ・ 県内で2番目に小規模特認校になった。
- ・ 双葉小学校の運営（イベント等）に地域を挙げて協力している。
- ・ 双葉小学校の廃校はとても寂しく思う。学校は地域にとって大事な場所。校舎も新しい。
（築10年位）
- ・ 学校への送迎が問題で、そこを解決できれば複式学級は解消できる。市内どこからでも双葉小学校に通えるようにしてほしい。
- ・ 大阪市阿倍野区から双葉小学校に通うために移住してきた。
- ・ 従来の学校の一律（画一的）教育に疑問をもっている。
- ・ 小規模特認校である双葉小学校をなくす意味がわからない。
- ・ 教育委員会は（移住希望者等に対して）双葉小学校のPRができていないのではないか。
- ・ 予算と教員の数の問題（理由）で小規模特認校をなくしていいのか。お金だけでは解決できない事があるのではないか。
- ・ 学校規模適正化はなぜはじまり、どんな意味があるのか。
⇒学校規模適正化は市長の諮問及び教員アンケートからはじまった。予算（お金）は関係がない。
- ・ 双葉小学校でなくても、しんどくなったら行ける学校が市内に1校は必要ではないか。
⇒市内に「フリースクール」を設置するといった論議は必要
- ・ 移住により生徒数が上向きになってきた。
- ・ 複式学級に問題はない。複式が良くないというのがおかしい。
- ・ 今のままの小学校の数で予算は大丈夫なのか。
⇒複式学級が悪いわけではない。（双葉小学校廃校ありきで進んでいるが）小学校と中学校は役割が違うと思うので、小学校は今のままですべて残すべき。すべて残しても予算は大丈夫である。（予算のどこに重点を置くかの問題）

⇒（上記の返答に対して）できるかもしれないが、今のままでは予算は厳しい。施設の更新等も難しい。予算はシミュレーションができていないが、厳しく難しいと思う。

- ・統廃合された場合の通学手段はどうするのか。

⇒通学手段は、公共交通機関やスクールバスなどを検討していく。

文教民生常任委員会 委員の発言等

（委員個人の発言であって、委員会としての統一見解ではありません。）

- ・学校規模適正化と小規模特認校をどうするかは別の問題であり、小規模特認校をどうするかは話し合われておらず、すべてを規模だけで考えている。予算等の問題はあがあるが、小規模特認校は残すべきだと思う。
- ・小規模特認校を残すことに対しては、まだ議論の余地はある。
- ・小規模特認校は複式学級を解消するという目的で誕生した。なので、複式学級が解消できない場合は廃校やむなし。また、校舎の建て替えは、子ども達の安全を確保するためであり、双葉小学校を存続するためではない。（当時の市長答弁）さらに廃校議論はずっと以前からの問題であり、小規模特認校だけを特別扱いすることはない。
- ・中学校に関しては統廃合が必要だが、小学校は今のままで良いと思う。
- ・双葉小学校の複式学級は中畑・住吉地区の方には理解されているのか。
⇒存続の署名を中畑町85%、住吉町90%いただいている。一部反対はある。
- ・予算と教員の数、及び、これからも加配が続けていけるのかが問題
- ・少子高齢化により統廃合は必要。今後の教育環境整備のルールを決めて15年間で進めていく。これまで双葉小学校が担っていた部分を、どこでどのようにして補い、実施していくのか議論が必要。
- ・小規模特認校の通学条件は、保護者等による送迎が条件になっていたが、途中からバス送迎が行われており、他の学校との公平性はいかかなものかという意見もある。

*注

「『双葉小学校をおもう会』の皆さんからのご意見等」の欄での⇒は、委員から答弁した内容です。（委員個人の発言であって、委員会としての統一見解ではありません。）

「文教民生常任委員会 委員の発言等」の欄での⇒は、おもう会の皆さんからの答弁です。